


[計画名称] 佐賀市排水対策基本計画 ～床上浸水戸数を減少し、市民生活への影響を軽減～ 【佐賀県佐賀市】

流域の概要

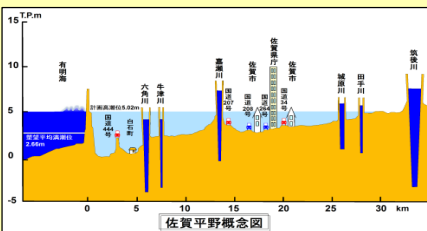
- 佐賀市の平野部では、近年頻発する集中豪雨により、平成20年6月、平成21年7月、平成24年7月、令和元年8月、令和3年8月と市街地を中心に大規模な浸水被害が発生、令和元年8月の床上・床下浸水被害は3400戸を上回る
- 浸水は広範囲かつ長時間に亘るため、道路冠水による通行止めや鉄道運休など交通機関の乱れにより、都市機能が低下し、市民生活に支障をきたしている。また、被災後、通常生活の復旧に多大な労力を要する床上浸水の戸数の減少は喫緊の課題である。
- 100mm/h安心プランで対象となる降雨 令和元年8月28日 最大110 mm/h

年月	床上	床下
H20年6月	24	484
H21年7月	11	591
H24年7月	99	489
R元年8月	604	2811



浸水被害の主な要因

- 市街地は洪水時の河川水位や有明海の高潮時の潮位よりも低い低平地であるため、河川への自然排水が困難
- ・勾配が緩い地形のため、排水に時間がかかる
- ・潮位によって、河川の排水が進まない時間帯がある
- 総延長約1600kmに及ぶ水路網に樋門や樋管が多数存在するため、洪水時など相互間での調整が必要
- 豪雨時期は灌漑期と重なり、普段から用排水を兼用した水路の水位が高く保たれているため、排水に時間がかかる



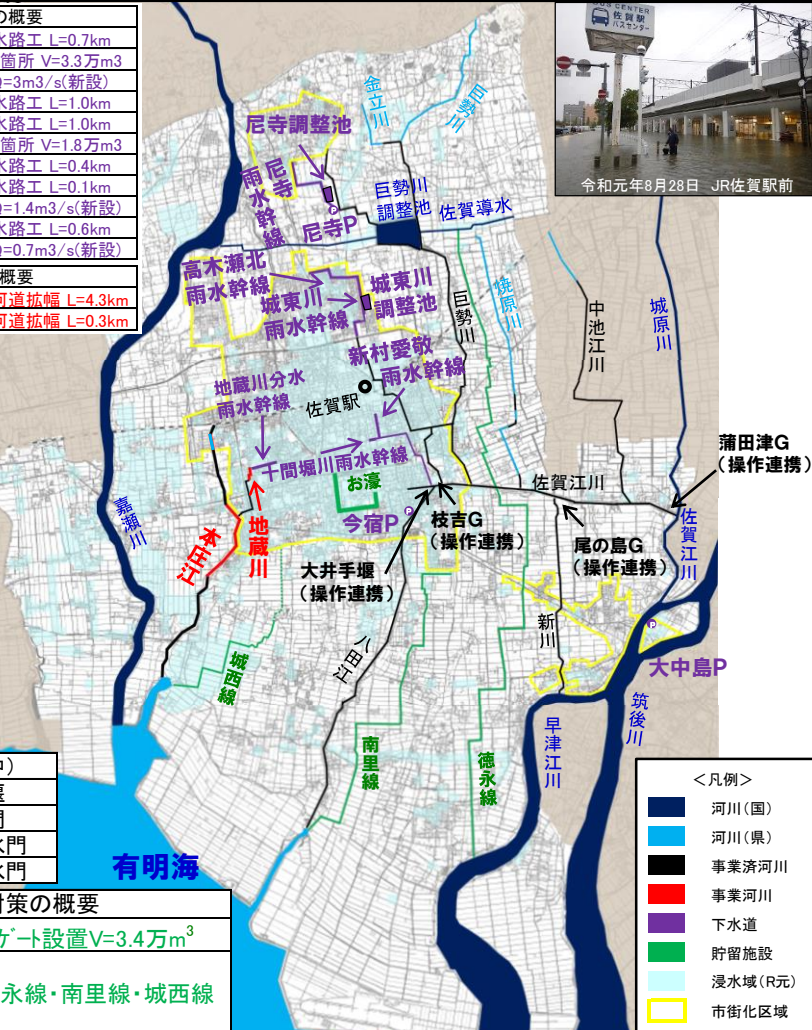
佐賀市の総合的な治水対策について、行政・流域の自治体からなる「佐賀市内浸水軽減対策協議会」で、検討、対策、事業進捗・効果の確認を実施

下水道事業の概要

尼寺雨水幹線	水路工 L=0.7km
尼寺調整池	1箇所 V=3.3万m ³
尼寺雨水ポンプ場	Q=3m ³ /s(新設)
高木瀬北雨水幹線	水路工 L=1.0km
城東川雨水幹線	水路工 L=1.0km
城東川調整池	1箇所 V=1.8万m ³
新村愛敬雨水幹線	水路工 L=0.4km
十間堀川雨水幹線	水路工 L=0.1km
今宿雨水ポンプ場	Q=1.4m ³ /s(新設)
地藏川分水雨水幹線	水路工 L=0.6km
大中島雨水ポンプ場	Q=0.7m ³ /s(新設)

河川事業の概要

本庄江	河道拡幅 L=4.3km
地藏川	河道拡幅 L=0.3km



操作連携(試行中)

- 大井手堰
- 枝吉水門
- 尾の水門
- 蒲田津水門

流域対策の概要

お濠貯留	ゲート設置V=3.4万m ³
農業用排水路(クリーク)貯留	徳永線・南里線・城西線

<凡例>

- 河川(国)
- 河川(県)
- 事業済河川
- 事業河川
- 下水道
- 貯留施設
- 浸水域(R元)
- 市街化区域

推進体制

佐賀市内浸水軽減対策協議会 (平成22年7月6日～)

組織	部局
国関係	佐賀河川事務所、筑後川河川事務所、武雄河川事務所
県関係	河川砂防課、下水道課、農地整備課、佐賀土木事務所、佐賀中部農林事務所
市関係	総務部、農林水産部、建設部、上下水道局下水プロジェクト推進部

取組内容

- 計画期間 令和4年度～令和10年度
- 河川事業
 - ・河川改修、河道掘削等
- 下水道事業
 - ・雨水幹線、ポンプの整備等
- 施設
 - ・既存施設(水門・ポンプ)の操作連携
- 流域対策
 - ・お濠貯留、農業用排水路(クリーク)貯留
- 危険情報周知、水防活動等
 - ・浸水標尺の設置・活用、防災情報(知識)の提供、土のうの提供
 - ・内水ハザードマップによる周知
 - ・市民が主体となった河川清掃活動等(佐賀市水対策市民会議)

ポイント1
既存施設の操作連携により、佐賀江川の水位を下げる
河川・下水道の整備を図る

ポイント2
想定以上の豪雨に対しては、流域貯留対策により被害軽減を図る

ポイント3
行政と市民が一体となって排水機能の維持・向上を図る



取組効果

行政と市民が一体となって浸水対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対し、床上浸水戸数の減少を図ることで、市民生活への影響を軽減する。